

渡辺：どこまでも国任せという答弁だ。

弱いところを残さない確かな改修計画を！

渡辺：大規模な洪水を経験して、洪水対策はダムよりも堤防、越水しても持ちこたえられる耐越水型の堤防をつくることを国も今進めようとしている。西日本豪雨では改修がおくれて未改修の堤防の弱い箇所が決壊が起きた。堤防の弱いところを残さないという確かな改修計画が求められている。

渡辺：堤防の弱いところを残さない

要望をしているのか？

宇治川の不安なところはどこにあると認識しているのか。国へ具体的な要望はしているのか。

答弁：宇治川は、平成21年に国が策定された淀川水系河川整備計画において、これまで宇治川の改修事業や天ヶ瀬ダム再開発事業などの整備を進められてきている。一方で、昨今の豪雨化の傾向は、淀川水系も含め全国的に顕著となってきており、本市でも、平成25年の台風第18号の影響により右岸堤防が噴砂した事象などを踏まえ、市長による国土交通本省への要望活動や、京都府域首长会議などで、必要な箇所への対策を講じていただくよう要望してきたところ。本市としては、宇治川の治水安全度の向上が図られるよう堤防の適切な管理とさらなる強化対策の実施を国に要望してまいりたい。

宇治川決壊の危機に学べ

渡辺：2013年9月の豪雨で宇治川決壊の危機になり、6万人への避難指示が出された。堤防決壊の危機は、堤防から水が吹き出した穴の跡が各所に残っていたことからもうかがえた。

今、歴史公園事業が進められようとしている右岸は、京滋バイパス近辺あたりにたくさんのパイピングの跡があり、実際、月の輪工法という漏水をとめる対策がとられていた。ところが、

渡辺：宇治橋下流域右岸約1kmは堤防強化対策・耐越水型堤防の工事の対象になっていないが、大丈夫という認識か。

答弁：平成25年9月の台風第18号の影響により噴砂が生じた箇所につきましては、国において地質調査を実施し、現地での事象や調査結果を踏まえ、各箇所の地形や地質に応じて適切な対策を実施されたところがございます。また、淀川水系河川整備計画には、堤防の安全性の低い区間が抽出された場合には、必要な対策を検討の上実施するとされております。

国の治水事業関連予算は10年で半減 「何う」だけでは命は守れない 市独自に調査・分析し、国・府にしっかり要望を

渡辺：宇治市区域の宇治川堤防は6kmある。両岸で12km。全て弱いところがないように、越水に耐えられる強固な堤防工事に早急に取り組むことが求められている。この間の大規模な洪水の経験から、ダムでは守れない。堤防決壊から守るために、強固な堤防をつくること、越水しても持ちこたえられる堤防をつくること、堤防が持ちこたえている間に命を守る行動をとる、これが国も到達した防災の結論。

ここにこそ国の予算をしっかりと向けるべきだ。洪水対策を行う治水事業費をもっと増やすべきだ。

10年前、国の予算、治水事業関連2兆円近くあったが、今1兆円を切る。この大事な洪水対策にかかわる治水事業費が半分以上になっている。ここが大きな問題。

天ヶ瀬ダムや宇治川堤防の安全確認について、市民の命を守る立場から、市みずからが責任を持って危険な状態の分析をすべき。国から伺っているで済まされる問題ではない。国にデータ提供を求め、そのデータに基づいて市独自に分析・評価すべき。その能力は市にあると思う。そうして得た情報を市民との共通認識にして、大規模洪水にも的確に対応した命を守る避難行動がとれるよう準備していくことが大切だ。市独自の調査に基づき、市民への情報提供、説明責任を果たす責任が市にあると指摘して、私の質問を終わる。

< 参照：宇治市議会議会中継「H31.3.4 ①」(www.youtube.com/watch?v=iceNlvg2OY) >



地域のご要望・生活相談は、渡辺携帯080-1474-3762 又は
自宅 Fax 33-1840、日本共産党議員団室 直通 20-8749, fax24-7884



2019年4月 No.46

発行 日本共産党宇治市会議員 渡辺俊三
宇治市菟道西牟上り 1-19 Tel fax 33-1840

要望のあるところ すぐに駆けつける

渡辺しゅんぞうが行く

宇治市議会3月定例会 一般質問(3月4日) 渡辺俊三

＝亀裂・老朽化が進む天ヶ瀬ダムや宇治川堤防問題＝

防災に強いまちづくりに向けて、市民の安心・安全を守るために議会毎に、内水氾濫対策、水道施設に自家発電機装置の設置、天ヶ瀬ダム再開発事業・宇治川1、500トン放流で対応できていない宇治川水管橋（府営水を東宇治地域に送水する重要な施設）等々を取り上げてきました。今議会でも亀裂が発生し老朽化がすすむ天ヶ瀬ダムや宇治川堤防などについて取り上げ、対策を要求しました。

「国から伺っております」だけでは市民の安心・安全は守れません

これに対して、宇治市当局は、「…と国から伺っております」一辺倒で問題点を自ら調査、判断しない姿勢が明らかで、近年発生している鬼怒川堤防決壊や昨年の西日本豪雨災害、本市も被災した2012年、2013年の豪雨災害の教訓から学ぶ姿勢が極めて弱い状況です。

引きつづき市民のみなさんの要望を議会に取り上げ、対策を強く求めてまいります。市民のみなさんの声をお寄せください。以下、質疑内容の概要をご報告させていただきます。

1. 天ヶ瀬ダムの安全性について

渡辺：ダム堤体のひび割れ・クラック、宇治川堤防天端にひび割れができています。昨年、2018年6月の大阪北部地震の影響、調査・評価は…

答弁：「ダムは健全な状態であり、安全性及び機能は保持されている」と国より伺っております。

2. 天ヶ瀬ダム堤体を横切るいわゆるF-O断層、破碎帯について

渡辺：当初の予想、幅9mを超え、14mにもなる破碎帯ということがわかった。

再開発事業は3回目の計画変更で、事業費は当初の2倍近くになり、工事期間もさらに3年延びて2021年完成に。このF-O断層が予想を1.5倍も上回る幅だったという事実は、堤体やそれを支える岩盤への影響は避けられないとの専門家の見方も出されている。

ダム天端の亀裂



渡辺：新たな事態～調査・評価は

当初計画では、トンネルの位置がダム本体の端から100m以上離れているので岩盤への影響はないとされていたが、新たな事態が堤体や岩盤に与える影響についての調査・評価は…

答弁：「解析結果を踏まえ、ダム本体とトンネルの離隔距離を約150m確保して施工していることから、安全性に問題はない」と国より伺っております。

渡辺：市独自の“分析と評価”をすべき

それは当初の評価。F-O断層の幅が14mもあって、工法も変更したのだから、当然評価の見直しも必要。国から再評価データを入手して、市独自の分析と評価を行い、市民に報告すべきだ。

3. 天ヶ瀬ダム再開発事業1, 500トン放流の必要性について

渡辺:590億円の巨額開発は見直しを
1, 500トンの放流のために、直径26mもの巨大トンネルを590億円もの巨額のお金をかけてやる必要はあるのか。府民負担がさらに大きくなる。今からでも見直すべきでないか。

答弁：天ヶ瀬ダム再開発事業は、「天ヶ瀬ダムの放流能力を増強し、下流宇治川や淀川の洪水被害の低減を図ることなどを目的とした事業。本事業により放流能力を増強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで、天ヶ瀬ダムの洪水調節機能が強化され、おおむね計画規模の洪水を安全に流下させることができる」と国より伺っております。

4. 具体的な安全対策 ダムが決壊した場合などについて

渡辺:ダムの安全化, 耐震化を要請しているが
市の地域防災計画では、ダムが決壊した場合、被害が大きく増幅されると指摘している。そして、安全化と耐震化を関係機関に対して要請するとあるが、どのような安全対策を要請しているのか。市民に対してどのような安全対策を求めるのか。

答弁：「ダムの日常管理や定期点検等を実施することで、堤体の変位等ダムの状況把握を行っている」と国より伺っております。本市としては、「引き続き国に対して、天ヶ瀬ダムの適正な維持管理が行われ、安全性が確保されるよう求めてまいりたい」と考えております。

5. 安全上の大きな問題～ダムにたまっていく砂の問題について

渡辺：堆砂の問題も見逃せない重大な問題。2015年1月の国の調査で、砂がたまっている割合、堆砂率が80%となっているとある。竣工50年の天ヶ瀬ダムでは、堆砂率は50%が基準になる。この堆砂率80%というのは、80年経過したダムと同じ状態に悪化しているということ。国は、洪水調節容量の余裕におさまっていないダムとして、国交省所管の558ダムのうち4つのダムを挙げているが、その1つが天ヶ瀬ダム。

渡辺:天ヶ瀬ダムは国も認める洪水調節機能に問題のあるダム～状況認識と対策は？
先ほど再開発事業で、洪水調節機能が強化されると答弁されたが、天ヶ瀬ダムの堆砂率の状況は、答弁とは逆に洪水調節容量に問題があるダム、治水能力が大きく制限されているダムになっているということを国自身が示している。この状況認識と対策はどうなっているのか。

答弁：天ヶ瀬ダムの堆砂につきましては、「平成29年度末で計画堆砂量600万㎡に対し、堆砂量は約495万㎡、約82.5%となっている」と国より伺っております。その対策といたしまして、「平成29年度は約3万㎡の土砂を撤去され、平成30年度も約3万㎡の土砂を搬去されました。次年度以降も引き続き堆砂状況を観測しながら土砂撤去を継続的に実施していく予定である」と国より伺っております。

何でも「国から伺っております」では市民の安全は守れない

渡辺:50年で495万㎡、年平均9万㎡の土砂がたまっていく状況なのに、年3万㎡の土砂撤去では対策になっていない。市はそれを国から伺って、よしとして今議会で答弁されているのか。それで市民に天ヶ瀬ダムの安全性を理解してもらえとお考えなのか。天ヶ瀬ダムの安全性について答弁全体に不安を感じる。現状を隠さないで、国にも確実な情報提供を求めて、市独自の分析をして、国に具体的な対応・対策を要請して、市民の安全を守るよう市に求めておく。



6. 1, 500トン放流と宇治川堤防の安全性について

渡辺:大阪北部地震後の調査点検結果は
昨年7月の西日本豪雨により各地で堤防が決壊。宇治川堤防は1, 500トン放流に対応できるのかと、河川の安全についても市民の不安の声が聞かれる。また、昨年6月の大阪北部地震では、宇治川堤防でも天端にひび割れが生じた。ひび割れについての調査点検結果は。

答弁：昨年6月に発生した大阪北部を震源とする地震により、宇治川左岸堤防の一部に亀裂が入った事案は、国により確認を行い、重大な損傷ではないと報告をされている。対応として、アスファルト乳剤注入等による応急復旧を行っており、その後、維持管理にて経過観測を行っているが、現時点において亀裂が広がる等の事象は見られていないと伺っております。

渡辺:市独自の分析をすべき
最近、京阪宇治駅前の交差点付近で歩道と道路との段差が目立つ。これは付近の河川掘削工事や大阪北部地震との関係など、その影響による地盤沈下現象とも考えられるが、調査・検証はしているのか。調査結果のデータを国に要請して市独自の分析をすべきだと考えるが。

答弁：京阪宇治駅前の歩道と道路の段差は、本市へご連絡後、国により確認を行っていただきましたが、「段差は宇治川の河床掘削の影響により生じたものではないものとする」と伺っております。京都府へ段差の補修を要望してまいりたいと考えております。

7. 河川改修計画の進捗状況について

渡辺：2016年に越水にも耐えられる堤防強化対策工事をしたとのこと。2009年策定の淀川水系河川整備計画によると、宇治川の宇治市区域の堤防強化対策箇所は約1km、2015年の鬼怒川決壊後の危機管理ハード対策では約1.4kmを耐越水型堤防に改修しているとのことだが、

渡辺:宇治市区域の宇治川は約6km。その4割しか強化対策されていないのではないか。

答弁：市域の淀川水系河川整備計画での堤防強化対策については平成27年度に、また、危機管理ハード対策として実施した堤防の裏のり尻補強や天端保護については平成28年度に完了したと国より伺っておりますが、河川整備計画には、堤防の安全性の低い区間が抽出された場合には、必要な対策を検討の上実施するとされており、今後とも堤防点検等を実施し、水防活動と相まって、洪水等に対する防災・減災を図っていくと国より伺っております。

天ヶ瀬ダム1500トン放流で、越水の危険性

